

2019 年度特別支援学校と高等学校との交流及び共同学習実施事業

交流及び共同学習における取組例

県立三田祥雲館高等学校

活動の実際（単元名）

「園芸入門」における交流及び共同学習を実施
ALT も交えて、ESS 部がゲーム・歌等で一緒に英語を楽しみながら交流

指導目標

本校生徒が上野ヶ原特別支援学校の生徒とともに学習、活動することにより、経験を深め社会性を養い豊かな人間性を育むとともに、障害の有無にかかわらずお互いを尊重し合う大切さを学び、共同社会の実現に向けた態度を養う。

事前学習

- ・「園芸入門」の生徒が特別支援学校において、ニュースポーツ等の交流を行った。
- ・焼き芋のためのサツマイモの収穫と安全な実施に向けた準備について話し合った。
- ・英語での歌やダンスの練習、6つのグループに分かれてのすごろくのようなボードゲームの用意をする中で、様々な支援が必要な特別支援学校の生徒に対してどんな風に伝えていけばよいかを考え話し合った。

学習活動（具体的な取組）

- 【園芸入門】
- ・自己紹介
 - ・グルーピング
 - ・ニュースポーツ（ポッチャ）等と一緒に言い、交流（9月）
 - ・サツマイモの収穫と焼き芋の試食（11月）
- 【ESS 部】
- ・英語による自己紹介
 - ・特別支援学校の生徒から ALT に質問
 - ・英語の歌とダンス
 - ・6つのグループに分かれて、マス目の所で指示された質問に答える「すごろく」のようなボードゲームを共に行い、交流

支援と留意点

- 【園芸入門】
- ・畑での歩行や車椅子の移動など、高等学校の生徒が積極的に支援し、安全に配慮するように留意した。
- 【ESS 部】
- ・ESS 部員は自己紹介や歌やダンスの説明を行う際、ゆっくりと表情豊かに身振りを使って行うようにする。ゲームの際、各グループに1名ずつ ESS 部員が入り、中心となって説明し進行しながら、その場に応じたサポートを行う。

評価

- ・自然の中での交流を通して親睦を深めるとともに、里山での活動を通して、自然とのふれあい・自然との共生、命の大切さを共に学んだ。
- ・一つ一つの活動に上野ヶ原特別支援学校の生徒は積極的に応じてくれ、ESS の部員も交流を通して自己有用感を高めていた。

活動の様子



本校の里山で収穫したサツマイモで焼き芋を行って自然学習（11月）



ALT も交えてクリスマスソングやゲームなど英語を楽しみながら交流（12月）

事後学習

今年度の取組をもとに、多様な上野ヶ原特別支援学校の生徒が楽しみながら学べるよう、次年度の取組にどのように生かすか検討している。

成果と課題

- 【成果】上野ヶ原特別支援学校の生徒とともにいくつかの活動を行うことによって時間を共有する喜びや楽しさを大いに感じ、自身の視野を広げることができた。他者を尊重することにより自己を尊ぶ精神を培うことができた。
- 【課題】今年度、「園芸入門」の授業での交流回数が少なかった。次年度は今年度より回数を増やし、より交流及び共同学習による成果が上がるように計画する。